

(様式第2号)

## 平成24年度 輝く私学支援事業実績報告書

学校法人名 (団体名)	学校法人 玉木学園
学 校 名	長崎玉成高等学校
所 在 地	〒850 - 0822 長崎市愛宕1-29-41
担当者氏名 及び連絡先	小形まゆみ TEL095-826-6321

### 1. 事業の実施

1 中高一環の事業を実施

2 高等学校のみを対象とした事業を実施

### 2. 事業実績

① 3年間の目標 (数値目標も記載すること)

【1年目】 (平成22年度)

(1)福祉人材育成

第23回介護福祉士国家試験合格率全国平均以上

地元介護系サービス事業者への就職希望者の内定率 100%

(2)地域貢献活動の基盤づくり

ふれあい学習年4回開催、介護老人福祉施設のご利用者とお買い物ツアーの実施

【2年目】 (平成23年度)

(1)福祉人材育成

第24回介護福祉士国家試験合格率 80%以上

地元介護系サービス事業者への就職希望者の内定率 100%

(2)地域貢献活動

高齢者とのお買い物・散策ツアー一年1回(参加目標数 35名以上)

障害児とのふれあい学習年4回(参加目標数のべ 40名以上)

【3年目】 (平成24年度)

(1)福祉人材育成

ア) 第25回介護福祉士国家試験合格率 80%以上

イ) 地元介護サービス事業所等への就職希望者の内定率 100%

ウ) 認知症サポーター養成講座 100%受講

## (2)地域貢献活動

- ア) 障害児・保護者とのふれあい学習年間 4 回開催 (参加目標のべ 40 名以上)
- イ) 高齢者サロン年間 8 回開催 (参加目標数のべ 80 名)
- ウ) 各種地域貢献活動満足度 80%以上

## ② 3 年間の実績 (必ず数値目標の実績を記載すること)

### 【1 年目】 (平成 22 年度)

#### (1)福祉人材育成

- 第 23 回介護福祉士国家試験合格率 73.7% (全国平均 48.3%)
- 地元介護系サービス事業者への就職希望者の内定率 100%

#### (2)地域貢献活動の基盤づくり

- ふれあい学習年 4 回開催、介護老人福祉施設のご利用者とお買い物ツアーの実施し、好評を頂いた。

### 【2 年目】 (平成 23 年度)

#### (1)福祉人材育成

- 第 24 回介護福祉士国家試験合格率 100%達成
- 地元介護系サービス事業者への就職希望者の内定率 100%達成

#### (2)地域貢献活動

- 高齢者とのお買い物・散策ツアー一年 1 回 (参加者数 36 名)
- 障害児とのふれあい学習年 4 回 (参加者数のべ 44 名)

### 【3 年目】 (平成 24 年度)

#### (1)福祉人材育成

- ア) 第 25 回介護福祉士国家試験合格率 100%達成 (2 年連続)
- イ) 地元介護サービス事業所等への就職内定率 100%達成 (3 年連続)
- ウ) 認知症サポーター養成講座 100%受講 (生徒 80 名 福祉科教員 3 名)

#### (2)地域貢献活動

- ア) 障害児・保護者とのふれあい学習年間 4 回開催 (参加者数のべ 48 名)
- イ) 高齢者サロン年間 9 回開催 (参加者数のべ 217 名)
- ウ) 域貢献活動満足度 4.64 (5 点満点)

③当該年度の事業報告（具体的に記載すること）

(1)について

ア) ○平成 22 年度作成「国家試験対策指導マニュアル」を授業や補習等で継続的に活用。

○平成 25 年 1 月 22 日（火）～23 日（水）（有）いとう総研 伊東利洋先生の受験対策講座。

○年間 75 日の放課後及び休業中の補習の実施

イ) 就職未定者の個別面談等による就職支援をその都度実施

ウ) 平成 24 年 5 月 25 日（金）、7 月 18 日（水）、3 月 18 日（月）の計 3 回、各学年ごとに全生徒、小島・茂木地域包括支援センターとの連携により全員認知症サポーター養成講座を受講

エ) その他

平成 24 年 8 月 2 日（木）～4 日（金）全国福祉研究協議会に教員 2 名参加  
別紙資料 1

平成 24 年 11 月 12 日（月）ド・ロ神父から福祉の心を学ぶ+介護老人福祉施設牧島荘ご利用者の方との外出ツアー研修（全生徒対象）

平成 25 年 2 月 16 日（土）米良美一講演「生きながら生まれ変わる」  
（全生徒対象）

平成 25 年 3 月 12 日（火）（有）三協車椅子製作所の見学研修  
（1・2 年生対象）

(2)について

ア) 平成 24 年 6 月 16 日（土）第 1 回ふれあい学習実施  
内容：七夕まつり 風船バレー



平成 24 年 8 月 18 日（土）第 2 回ふれあい学習実施  
内容：夏まつり



平成 24 年 11 月 12 日（月）第 3 回ふれあい学習実施  
内容：バイオパーク外出



平成 25 年 2 月 16 日（土）第 4 回ふれあい学習実施  
内容：節分 お面作り&豆まき



イ) ○平成 24 年 5 月 8 日 (火) 長崎市社会福祉協議会地域福祉係主事

富永敦志氏による講話

○平成 24 年 5 月 11 日 (金) 地元自治会長宅へ挨拶・高齢者サロンの案内

○平成 24 年 7 月 1 日 (日) 長崎市社会福祉協議会愛宕団地支部総会へ出

席し高齢者サロンの案内

○平成 24 年 6 月 16 日 (土) 第 1 回「よっていかんね笑々々来楽部」開催



テーマ「地域の方とコミュニケーション&ニーズを知ろう」

○平成 24 年 7 月 21 日 (土) 第 2 回「よっていかんね笑々々来楽部」開催



内容： 足湯      がんばらんば体操      トランプゲーム      等

○平成 24 年 8 月 18 日 (土) 第 3 回「よっていかんね笑々々来楽部」開催



内容： がんばらんば体操      うちわ作り      漢字クイズ      等



○平成 24 年 10 月 20 日（土）第 4 回「よっていかんね笑々々来楽部」開催



内容： 手浴 アロマキャンドル製作 フルーツバスケット 等

○平成 24 年 11 月 17 日（土）第 5 回「よっていかんね笑々々来楽部」開催



内容： クリスマスカード製作 運動会 牛乳パックタワーゲーム等

○平成 24 年 12 月 18 日（土）第 6 回「よっていかんね笑々々来楽クリスマス会」開催



内容：クリスマス会

○平成 25 年 1 月 19 日（土）第 7 回「よっていかんね笑々々来楽部」開催



内容：新聞相撲 書初め アイホットパック 巨大カルタ探し 等

○平成 25 年 2 月 16 日（土）第 8 回「よっていかんね笑々々来楽部」開催



内容：俳句でメッセージ バレンタインカード製作 節分豆まき

平成 25 年 3 月 16 日（土）第 9 回「よっていかんね笑々々来楽部お別れ会」  
開催



内容：お別れ会



第 1 期よっていかんね笑々々来楽部メンバー

P V（DVDの中にデータあり）参照  
別紙資料 3 参照

ウ) 別紙資料 2 及び 3 の通り、本校福祉科生徒との交流活動に対し、好意的なご意見を多く頂いた。

#### ④今後の課題

(1) 本校福祉科の特徴の一つである「介護福祉士」の国家試験に合格するという目標を 2 年連続 100% 達成できたことに、「ながさき私学魅力アップ事業」からスタートし現在の「輝く私学支援事業」のバックアップがあったことに大変感謝申し上げたい。高齢社会問題が山積している日本にとって、「介護福祉士」の養成は急務であり、その一翼を介護福祉士養成校が担っているため、質の高い介護福祉士、即戦力となる介護福祉士を育てて行くことが今後の課題である。

介護系事業所への就職内定については、福祉科創設 20 年目にしてようやく各事業所との信頼関係も築けつつあり、安定した求人を頂いている。さらに今後は一人ひとりの生徒と事業所のマッチング支援及び、就職後のフォローアップも行いながら、「3 年内離職率 0」を目指したい。

(2) 別紙資料 2 及び 3 の通り、福祉科生徒による地域貢献活動に対するそれなりの評価を頂いた。特に今年度新企画であった高齢者サロン「よっていかんね笑々々来楽部」に関しては地域活動の基盤づくりが目標であったが、予想以上の参加者と成果を得られたと思う。同時に生徒達自身の心の中に変化があらわれ、自分自身を見つめる、そして周囲の人を良く観るという視野の深まりと広がりが出てきた。これは介護福祉士として必要な資質の一つ“自己理解”と“他者理解”のであり、1 年間悩みながら、楽しみながら活動を続けてきたからこそその成長ではなかっただろうかと思う。(別紙資料 4 参照)

今後、本校が地域福祉や地域交流の拠点となることを願って、さらに地元の自治会の皆さま、民生委員の方々、地域包括支援センターの皆さまと連携・協力を頂きながら活動を続けていきたいと考えている。



### 3. 事業実績の評価

#### ①事業実績に対する学校評価（自己評価）

4 : 十分達成している。

#### ②学校関係者評価委員会の構成

地元公立中学校元校長	横山 碩男
同窓会会長	岡 誠一
P T A会長	前田 正茂
P T A副会長	島内 孝宣
P T A役員	渡辺 謙二
P T A顧問	福田 安秀

#### ③学校関係者評価委員会の評価

4 : 十分達成している。

講評： ○高齢者には二つのタイプがあり、ハード面が理由で外出ができない場合と、ひきこもりなどのソフト面が理由で外出ができない方がおられる。サロンの取り組みは、地域の方にとってはそういう外出の機会を提供できていると思われる。

また継続した活動を行うことにより、生徒と地域の方との交流が密になると思われ、続けることは大切である。

○国家試験全員合格は良かった。

○地域貢献活動は、福祉科に限定したことなく、今後は学園全体で取り組んでいくものにしたい。

○これからの福祉界は、寝たきり・介護予防が大きな課題となる。そういう意味でも高齢者サロンで活動することで「予防」につながるのではないかな。

④学校法人理事会報告日 平成 25 年 3 月 27 日

⑤学校法人評議員会報告日 平成 25 年 3 月 27 日

## 平成 24 年度全国福祉高等学校校長会 福祉担当教員等研究協議会（教員介護知識技能講習）報告書

日時：平成 24 年 8 月 2 日（木）～3 日（金）

場所：函館国際ホテル（函館市大手町 5－10）

参加者：中野陽裕 小形まゆみ

- 内容：①介護福祉士の専門性について  
②地域福祉における施設の位置  
～地域福祉の時代における福祉施設の位置について～  
③施設や事業所の機能や役割について  
④生活支援技術について  
⑤「地域自立生活支援について」  
～地域を基盤とした自立支援の支援の視点と方法について～  
⑥介護事業所運営の理念と実践から

所感：テーマは「地域福祉」これから、日本が考えなければならない、最大のテーマであると思う。

2000 年社会福祉事業法から「社会福祉法」への改正がなされ、その第 1 条“法の目的”の一つに「地域における社会福祉の推進」と明記された。さらに第 4 条においては「地域住民、社会福祉を目的とする事業を営む者、社会福祉に関する活動を行う者の三者が地域福祉の推進に努めなければならない」とされている。

私たち高校福祉科も、その地域で生活を行う住民であり、福祉活動を行う者であるから、地域福祉の推進を図らなければならない者と解釈される。そしてそのような立場でもあることから、福祉人として社会へ出る生徒一人ひとりが“地域福祉を担う人材”としての自覚と態度・姿勢を身につけさせることも責務だと考える。

今年度からスタートした福祉科の新企画高齢者サロンの運営もまた「地域福祉」がテーマである。この研究協議会の講義をお聞きし、福祉のまちづくりを担える人材養成と、地域に根ざした学校・学科づくりが必要だとさらに感じた。